

## 第 1 回振興計画審議会会議録

日 時 場 所	平成19年7月31日(火)午後1時30分～
	総合体育館ミーティングルーム
	1. 開 会 (瀬谷企画調整課長)
	2. 任命書交付 (加納町長)
	町長より次の委員へ交付

### 石川町振興計画審議会委員名簿

(区分毎順不同)

区 分	氏 名	備 考
学識経験者	渡 邊 忠 栄	
"	西 川 一 英	
関係団体の職員	相 楽 一 重	石川町商工会副会長
"	水 野 光 成	J Aあぶくま石川農業協同組合常務理事
"	野 崎 良 子	石川町文化協会事務局長
"	吉 田 節 子	石川町婦人会連絡協議会会長
"	瀬 谷 浩 宣	いわき石川青年会議所理事長
一般町民	深 谷 恒 夫	(公募委員)
"	添 田 好 史	"
"	添 田 一 文	"
"	斎 藤 英 幸	
"	山 口 一 雄	
"	添 田 京 子	
"	鈴 木 后 世	
"	酒 井 秀 樹	

町長あいさつ	3. あいさつ
	加納でございます。お忙しい所、お集まり戴きありがとうございます。石川町の新しい振興計画について、御審議をよろしくお願いいたします。
	現在、石川町には、第4次の総合計画があります。しかし、時代の変化が非常に速い。そういう時代に応じて、以前につくった計画がまだ有効だからそのままというのは、私は、良い事ではないと思います。やはり新しい時代に挑戦していくためには、継続すれば良いという時代から、その時代に応じた計画をつくり、将来の展望をきちっと生み出していくことが必要であり、その為には、新しい計画を策定する必要があるということでもあります。ぜひとも、今回、皆様方をお願いして、そういう方向にまとめていた

	<p>だきたい。その様に思います。</p>
	<p>さて、石川町の財政状況ですが、10年位前には国から交付される地方交付税が30億円程度ありました。今、現在どうかというと、20億を切っています。10億の違いがあるということです。だから10年くらいで10億の交付税が少なくなっていることになります。これは、石川町だけでなく、どこの自治体もそういう問題が起きています。例えば、須賀川市ですと、今まで、80数億あったものが、現在、60億しか交付されない、そういう時代になっています。</p>
	<p>今、現在、石川町の一般会計予算が57億程度ありますが、その中で、起債の返済が、約15億位の負担となっています。</p>
	<p>みなさん御承知のように、夕張の財政破綻の話がよく出てきますが、その原因として考えられることは、炭鉱の関係の人の減少により、13万人いた人口が、今では、10分の1の1万2千人位になってしまいました。ところがそれだけ減っているにも関わらず、多くの投資をしてきたことが大きな影響を与えたものと思われる。</p>
	<p>また「市役所の職員を減らす。」これが一般の企業ですと先行きや見通しにより、業績が残せなかったら、削減を効果が出るまでしていくというのが当たり前のことです。私もそうやって耐えてきました。</p>
	<p>ところが役場はそれが出来ない。だから合理化といいながら、合理化を図ることができていない。ここに問題点があると考えています。</p>
	<p>こういうことを踏まえながら、石川町を再生していこうという考え方に立っています。</p>
	<p>また、人口の問題点については、2万人位の人口が、2万2500人位に延ばそうと目標をたてておりましたが、現在どうなっているかといいますと、1万8600人位の人口となっています。これから20年後はどうなるかという、約5000人が減り、1万3000人位になると予想されています。そうなった場合に、どのような石川町にしていかなければならないか検討を進めることが重要であります。例えば、企業誘致等により、これからの石川町が、健全な石川町になるように努力していきたいと考えています。</p>
	<p>計画は、早く作ってしまえば簡単ではありますが、そうではなくて、今回、私が企画調整課長に自分たちで計画書を作成するよう指示をしています。役場職員はすべて携わって、全員で作り上げる。そういうような心情でつくりあげたい。みなさん方にも、ご負担をかけますけれども、そういうことを御理解いただきたいと思います。</p>
	<p>現在の石川町の置かれている財政問題は、県の指導を受けて、財政の内容の評価を戴きたいと思っているのですが、去年の状態では、下から3番目位となっています。このような、深刻な事態が、現在の石川町であります。こういうことを、みなさんの前で、大々的に公表してしまえば、石川町からどこかへ行ってしまうということになってしまいますから、それは、なかなか申し上げにくい訳であります。やはり、みなさん方に御理解いただいて、どうすれば、自分たちの住む石川町をどうしていけばよいのか</p>

	<p>を考えながら、今回の総合計画の作成に向けての検討を戴きたいと思いません。</p>
	<p>これまで、なんでもかんでも役場に電話して解決をしようとしてきたと思います。昔だったら、自分たちでできることは、自分たちで行ってきたのではないのでしょうか。役場に直ぐに電話して頼んでいたのでは、協働のまちづくりにはならない訳です。町民の意見をすべて取り上げて、役場が振り回されていたのでは、人員の削減は出来ない。私はこれからの時代は、石川町の1万8600人位の人口ならば、120~130人くらいが適当な人員だろうと思うのです。今、一人の役場職員に対する経費はどのくらい払わなければいけないのかというと、年間1100万円くらいの経費がかかります。民間だったら250万か300万円。こういう職員を大勢抱えていたのでは、これは新しい時代に即応出来る様な人材づくりは難しいのです。私は、何と少しでも人員削減を図りながら、また、削減が出来なければ、それ相応の仕事をしていただいて、能力発揮をしていただいて、石川町のために最終的に良い方向に向かうようにしていきたいと考えています。</p>
	<p>そして、少なくとも石川町が60市町村の中で、上から10番目くらいの財政評価となるような石川町を作るのが、私の仕事だと思っております。</p>
	<p>そのためには、町民のひとり一人にもよく御理解をいただいて、なんでも役場へ電話すればやってくれる。やるのが当たり前だ。税金を払っているんだ。そういう感覚ではなく、自分たちの身の回りは自分たちで作りに上げていく。そして、自分が住みたくなる町を作っていけるよう共に努力していきたいと思っております。</p>
	<p>私はよく会社の中で申し上げておりましたが、会社で給料が安かったら給料を高くするためには、働いてコストの問題を考えた働き方をする。それが、やっぱり社員じゃないか。コスト感覚の無い者は社員であってはいけません。ですから、賞与の支払でも、どこそより少なかったら、今度は、年末は多くなるためには、こういうようなことをしなければいけない。そういう指導をして参りました。</p>
	<p>これからの地方自治も同じであります。公務員になれば、永久に安泰だっている時代から、これからはそうではない時代が必ず来るだろうと思います。競争の時代に入っていく。だから、そういう今日の競争時代に勝ち抜くための、石川町づくりをするのが、私の仕事だと思います。その方針、基本的なところを作り上げる。これが今回の第5次総合計画の中に織り込まれていなければいけないと、私は思っております。</p>
	<p>審議会のみなさんは、先進的な考え方を持っている方でありますので、忌憚の無い御意見、また、町に対する貴重な御意見などをよろしくお願い致します。本来であれば、企画課長が書いたあいさつ文を読み上げようと思ったんですが、自分の思いを話させていただき、みなさん方には勝手な話を申し上げて、申し訳ありませんでした。</p>
	<p>私の切なる願いは、自分の町は自分で作る。自分の町は自分で築き上げる。こういう精神で、今回の第5次総合計画は、形だけでなく中身のある</p>

	計画にしていきたいと思います。
	大変長い時間をとってしまいましたが、ひとつ、くれぐれもよろしくお
	願いを申し上げて私の挨拶とさせていただきます。
	よろしく願い申し上げます。
	4．会長及び副会長の選任について
	委員の互選により、次のとおり選任
	会 長 西川一英（学識経験者）
	副会長 渡邊忠栄（学識経験者）
	5．説明事項
添田係長	石川町第5次総合計画策定基本方針について （詳細に説明）
添田係長	石川町第5次総合計画スケジュールについて （詳細に説明）
添田係長	地区まちづくり計画について （詳細に説明）
深谷委員	6．質疑応答
	地区のまちづくりにおいて、各地区の説明会があった。各区長と話をし たがあまり理解出来ないとのことだった。
	また、地区まちづくりにおいてリーダーをつくる研修会はあるのか。
	以前に、町の行政改革審議会というのがあったと思うが、何を決めて、 そのことによって、どのように変わってきたのか。
添田係長	まず、地区には事務局長と3名の事務局職員の計4名が地区担当として加 わる。地区担当職員へも各地区の説明会と同様の研修を行っている。まち づくり委員会を進める中で、わからないことがあれば、まず、地区担当の 職員に問い合わせていただきたい。
	また、各地区の説明会以外でも、もう少し説明を聞きたいという依頼が 来ており対応しているところである。
	総論として何をおこなってよいのかわからないという部分については、 全国において様々な事例があるので提供していく予定である。また、既に 事務局長に対しては、事例集と統計資料集を渡してあるので参考にしてい ただきたい。事例としては、比較的、小さな事から始まっている事例が多 く、小さなことでも良いからまずは出来ることからスタートして良いので はないかと考える。
	行革については、行政改革大綱とその下に行政改革プログラムというも

	<p>のがあり、大綱は大きな枠組みを定め、プログラムで具体的な形を定めている。プログラムは毎年、進行管理を行っている。進行管理のわかりやすい事例では、職員の削減プログラムによるものであり、年次計画にもとづき目標達成に向けてプログラムを進行している。</p>
深谷委員	<p>行革に関しては次回の審議会において資料をお渡ししたいと考える。</p> <p>地区の職員が加わるのは良いが、地区の方々は全く理解していないので話が合わない。</p> <p>地区の人は知識が少ないので、職員と話をして、なかなか納得するまでにならない。その様な状況であるので、手とり足とり教えて進めて欲しい。そうすれば地区のリーダーも少しは動けるのではないだろうか。</p>
瀬谷課長	<p>担当の職員も地域の特性を活かし、また既に、それぞれの地区で地域づくりの活動を行っている方々もいるので、こういう活動をベースにしながら、ひとつひとつ積み上げていくという考え方もあるので、それぞれのペースで進めていただければ良いと思っている。</p>
深谷委員	<p>強引に同列に上げると言っている訳ではないが、予備的な知識を与えて欲しい。質問をするにも、何も知識が無いので、質問すら出来ない。</p>
山口委員	<p>協働で築く循環型社会のイメージの中で「町民のできることは町民で」という表現は、行政側から発信する表現としてはあまり適当ではないと考える。もう少し違ったニュアンスによる表現をしてはいかがか。</p>
瀬谷課長	<p>これまでの何でも役場に要望していこうという部分から、自分たちで出来ることを身近なところから始めていこうという意味合いでの内容ということと理解していただきたい。</p>
山口委員	<p>このような考え方は非常に大事なことから、当然であり、必要だと思うが、表現としてももう少し何か他のものがないかなという感じを受けるので、他の言葉を用いて「一緒にやりましょう。」というようなニュアンスを表現できたらよいのではないだろうか。</p>
瀬谷課長	<p>これらは行政から見た表現ではないかということで、「協働」という表現についても同様のご指摘をいただいている。</p>
山口委員	<p>この表現というのは、どういうところから引用したのか。</p>
添田係長	<p>行政がなんでも引き受けることが出来る様な状況ではなくなってきており、そのようななかで、町民のみなさんが出来ることについては、町民のみなさんが主体となって進めていくというような仕組みづくりをしていく。</p>

	もうひとつには、地域づくりの計画の中で、自らの地域を見直しながら、
	自分たちの地域を良くしていこうするような考え方ということを表現でき
	ればと思っている。
山口委員	内容としてのニュアンスは理解できる。我々もそう在るべきだと思っ
	ている。文章の表現として、この文章というのは、どのようにして選定した
	のか。
瀬谷課長	今回の計画づくりには、コンサルタント会社は一切参加していないので、
	我々の手で作業を進めている。この様な状況であるので、未だ未整合なも
	のや詰めきれていないものも少なくないと思う。
山口委員	この文章は役場の職員がつくったということか。
瀬谷課長	この文章で表現したかったものは、住民自治の考え方が浸透していけれ
	ば、というところである。
山口委員	住民自治の中で持ち上がった文章ということであれば素晴らしい言葉で
	あるが、行政側から出た文だとすると、少し無理があるのかなと思う。
瀬谷課長	わかりやすい表現をしたいという意図があり、この様な文章にしたところ
	であるが、これについては検討していきたい。
添田好史委員	計画をつくるにあたり、予め、町民にできることは町民でというフレー
	ムをつくり、このフレームを埋めていく作業の様に聞こえるのだが、例え
	ば、公民館単位でのまちづくりはどういうものなのかというのが具体的イ
	メージとして見えてこない。自分が住んでいる町や地域に対してどれだけ
	愛情を持っているのか、そして、どういったことをやっていけばよいのか。
	あるいは、外に出て行かなくても働ける環境はあるのか。いろいろな部分
	で人と人とが交流出来る様な状況がこの地区にはあるのか。そういったこ
	とが、非常に頭が痛い問題で、難しい話よりも、それがまちづくりだとし
	たら、近い人の人とふれあって、あるいは、働きやすい場所というのは、
	公民館単位でできるのか。または、公民館単位でやらなければならないこ
	とも有るだろうが、まちづくりという言葉とのギャップがあり、町内会や
	区でやればよいことをと、まちづくりのギャップというのを言葉として感
	じる。町民のできることは町民で、というが、果たして、自分で出来るこ
	とはどこまであるのか、というのが実感としてある。先ほどの人口や財政
	の話聞いたが、ネガティブな話に聞こえて、ではどのように夢を持てる
	のか、ということが視点として少し苦しいところだ。では、石川町として
	どういうブランドがあって、周りの市町村からも注目を置かれる、あるい
	は、他県からも石川町というのが福島県にあると言ってもらえるというよ

	うな、この地に住んでいて誇りを持てるというベースになると思う。という私のイメージと今、進められようとしているまちづくりをどのように連携させていただけるのか、町の意見を伺いたい。
添田係長	この計画は二層構造になっていると考えていただくと理解しやすいと思う。ひとつは、専門計画である。この専門計画は、行政にとってこの町をどのように進めていくのかという計画になる、ここには、企業誘致や少子化対策、農業や教育など様々な課題をひとつのフレームとしてつくる。これは人口や財政などの状況を踏まえながら、石川町がどういう将来の町をつくっていくのかということ織り込んでいく。
	もうひとつは、地区や地域のまちづくり委員会によるまちづくり計画というのが別枠であるということをご理解いただきたい。まちづくり委員会やまちづくり計画では、地域のみなさんが、地域にある資源などをもう一度見直しをしながら、自分たちを取巻く生活の中での、地域の満足感をいかに高めていくのか、地域の活性化を図っていくのか、というのが地区まちづくり計画というものの位置付けになる。
	町の将来を描く計画と、それぞれの地域で作る計画との2つの計画に大きく別れるということ捉えていただきたい。
添田好史委員	二層構造は理解できるのだが、基本計画自体のフォームがどうなのかというのが、絵面として見えてこないの、自分たちのまちを作っていくという理念だけでも良いのだが、これに何かプラスしてイメージを持たせていただいたほうが参加しやすいものになるのではないかと思います。
添田係長	まちづくり計画は、既に全国で多くの事例がある。そのなかでは、自分たちが住んでいる地域をきれいな地域にしようということで、花いっぱい運動から住民自治を図っていくという取り組みや、元々、農業地帯だった地区において、農地が荒れていく状況下で、荒れてしまった農地をひまわり畑にし、誘客を図る取り組み、そばを植え、地域の住民で出資し、そば屋をオープンし、成功している取り組み等の事例も見られる。
	石川町であれば、旧町内で行われている祭りを大事にして未永く伝えて、活性化につなげていくであるとか、更には、地域活動を行っている既存の団体の活動を伸ばす等という観点で、まちづくり計画を捉えて頂きたいと思う。最終的には、その活動が、地域の中でのバイタリティーになって、できるならば経済活動を伴っていくような形になれば、非常に良い計画の形になっていくのではないかと考える。例えば、直売所などを始めることによって、お年寄りの活動が盛んになって、健康増進や医療費の削減に繋がるとか、ゴミのない地域にしようとか、ひとつひとつを積み上げることでまちづくりの一步になるのではないかと考える。
	地域のみなさんが出来る範囲で、何が出来るのかという議論をしていた

	<p>だくというのが、今回のまちづくり計画というものの考え方ということでご理解いただきたい。</p>
鈴木委員	<p>私は行政改革審議会にも参加したが、今回、財政の話や人口の話を聞くとやはりネガティブな方向に行きやすいと思うのは、以前の行政改革審議会の時にも同じ様な感じがあった。今日は、女性まちづくり委員会や、若者まちづくり委員会はあるというのは、今までと違って、町のほうでも住民の声を一生懸命に聞こうとしてくれているのかなと感じる。私としては、今までいろいろな計画に携わってきたのではあるが、すごく良いことだと思っている。先ほどの説明においても、計画づくりの中でわからない事があれば説明するという姿勢を続けていただきたい。もっと良いまちづくりが出来るのではないかと思う。</p> <p>これから、この地域に根ざしていかなくてはいけない子供たち夢を与えるような計画を、是非、まちづくり委員会で検討してもらいたいと思う。</p> <p>例えばそれが、お祭りであったり、イベントであったり、予算がないから縮小ばかりではなく、是非、夢のある施策を子供たちに向けて発信できるようなまちづくりにして欲しい。</p> <p>人の循環というところの表現で「町民にできることは町民で」という表現ではなく、そこはもう少しやわらかい表現で。みんなで参加する。地域で参加する。ような書き方をしたほうが良いのではないだろうか。このまま町民に提示するとしたら、逆のイメージにとらわれないような書き方にしたいと思う。</p>
添田係長	<p>説明不足の点があったのではないかと思いますので説明します。</p> <p>町としては、やるべきことはやらなくてはいけない訳であり、これからつくる計画が、すべてマイナスの計画になるということではないので誤解のないようお願いしたい。</p> <p>石川町が「これからどうしなくてはいけないのか」「やらなくてはならないことは何なのか」というのを十分に検討して、循環型社会の計画の中にやらなくてはならない事業、やらなくてはならない新規のプロジェクト的なものをきちんと位置付けて、そして、石川町はこういう町を目指すということを経営計画で立てるということになる。ただし、それを行うためには、既存の事業のうちどこかを縮小しなければならない。このような両面が入ってくる計画ということでご理解いただきたい。</p> <p>今までの計画というのは、あれもやるこれもやるという計画で、結局出来ないということになりやすかった。今回はやるものはきちんと明確にしていこうという考え方であり、10年を前期、後期に分けたなかで5年後に検証し、見直しを図るという形で進めていく。</p>
深谷委員	<p>策定組織の中で総合計画調整班や地区まちづくり委員会、女性・若者まちづくり委員会のこの3つがそれぞれつくる計画がどのように関係してい</p>



	くのか。
添田係長	<p>まず、女性・若者まちづくり委員会は計画を策定するのではなく、提言をする役割を担うということになり、この提言は総合計画調整班から専門計画班や地区のまちづくりに関連する部分があれば地区まちづくり委員会にも提言を吸い上げていき、地区ではその内容について議論する形となる。</p> <p>専門計画班と地区まちづくり委員会はまったく別のものとして進むものであり、総合計画班にはそれぞれの情報は提供されることになるが、このふたつを一体的に統合するということを行なわない。あくまで、地区の計画は地区の計画とし、行政の計画は行政の計画ということになる。</p>
深谷委員	<p>具体的に地区の計画の中に生活環境に関する計画が生じてきたときに専門計画では別のものとして取り扱うのか。</p>
添田係長	<p>地区のまちづくりの議論の中で、ソフト的なものばかりでなくハード的なものが出てくる場合も考えられる。これが地区で行なえるものと、行政に対する要望とか、行政に対する提言というのが議論の中で生まれてくる場合があると思う。この様な要望や提言については別なかたちで総合計画班に情報として提供していきたい。地区・地域の計画が要望・提言だけになってしまえば、要望・提言の実現に対して具体的な姿を提示できなくなってしまう恐れがあると思う。わかりやすい計画にならなくなってしまう可能性が高くなってしまふ。</p>
山口委員	<p>町民にできることとはどのようなことがあるのかということで、障がい者に対する自律支援法で、地域生活支援事業によって事業が組めることになっているが、私たちは、15年位前から地域の人たちの手によって余暇活動として金曜の夜に、町からの支援無しで、自分たちの力で行なってきた。そういう活動が、結構ある。今までのように税金をたくさん投入して事業を行なうのではなく、町民とともに役場の職員も参加することによって事業を伸ばしていけば、そんなに予算をかけなくてもいろいろなことが出来るのではないのか。そういう事業を増やし輪を拡げていけば、50万の事業が5万で出来るかもしれない。</p> <p>町も今は予算があまり無いのだから、この点を何とか公にして、町はこれだけしかお金を使えないのだから、何とかいっしょにやりましょうということで進めれば良いと思う。</p>
瀬谷課長	<p>現在、美しいまちづくり事業によって、行政区や地域活動の団体の事業も受け入れて支援できるものは支援していこうという形にしている。</p> <p>この事業を今後、地域づくりの関係に対してどういう支援をするようにしたら良いか、中身の問題を検討しなければならない課題であると考え</p>

	る。
山口委員	支援ということではない。一緒にやりましょうということをお願いしたい。
瀬谷課長	支援するということと、それぞれの分野で制度に基き、義務化されているものがあると思うので、中身に応じて対応しなければならないと思う。
山口委員	基本的に行政側も支援だけでは我々もしんどくなってしまふ。これからは支援ではなく参加する形にしていけないと町もやっていけなくなってしまうと思う。
水野委員	第4次の総括について、どのように総括するのか伺いたい。また第5次を実効性のあるものにしたいということだが、そのためには第4次の総括をお聞かせ願いたい。
西川会長	どこでもそういうものなのかもしれないが、これまでの総合計画は絵に描いた餅のようなものでしかなかったと思う。 そうとはいえ、前計画をしっかりと総括し、文章化したものを提示していただきたい。また、厳しい現実を踏まえながら第5次の計画は夢のあるものにしていきたい。
	将来の計画を作る上で、将来の予測というものも必要になってくると思う。また、計画をつくるための情報の共有というものが大切だと思う。例えば石川町に高校が2校あり、高校は町の大きな産業といえる。果たして、これからの少子化の中で、高校の入学者がどのようになるのか、というようなことを提示していただきたい。できるだけ多くの資料を提示していただきたい。
添田係長	まず総括の部分では素案ができたというのが現在の進捗状況である。次回の審議会において総括の提示を行いたいと思っているところである。 総括の仕方ということについては、基本計画のそれぞれの施策に基づき達成したものや課題が残ったものはどれなのかということなどを踏まえて4段階の評価を付したことになる。 今後のビジョンについては、それぞれの専門計画の部分になってくる。これも並行して進める作業になり、財政シミュレーションについてもこれから作業が進むことになる。
瀬谷課長	資料としては、これまでの統計資料を提示したいと思っている。シミュレーションは、作業の進み具合によっては提示したい。
添田一文委員	人口を維持していく、減らないようにするために結婚しない男性や女性

	を結婚させて子供を産むようにしてもらいたい。全国的な問題でもあるのだが、この辺りを計画に入れて実現してもらいたい。
瀬谷課長	人口の問題は大変な問題だと認識している。人口減少の要素としては、自然減と社会減があり、自然減のほうは、今後しばらくは人口が増えないという見通しになる。
添田係長	石川町の人口の推移を合計特殊出生率データで追っていくと、高校卒業後に石川町に残る女性、または、石川町に転入してきて結婚する女性の方々の結婚年齢・出産される数などがキーポイントであり、晩婚化などの影響を総合的にシミュレーションするソフトにより推測し、女性が平均何人の子供を出産すれば人口が減らないのかということシミュレーションしたが、5人産んでも人口は増えないという現状になっており、それだけ自然減の影響も大きいということが推測される。これからの人口政策のうち、人口の減り方を少しでも緩やかにする為の観点から人口問題を捉えていかなければならないと思う。
瀬谷課長	最もわかりやすいのは雇用の場の確保や創生するというのがひとつの施策の方向性だと思う。
添田一文委員	町長が企業誘致ということを公約として挙げていたが、企業誘致については真剣に取り組んでももらいたい。まちづくりや町を良くしようとかではなく、まず企業誘致に取り組んでもらわないと、人口問題も働く場所がなければ若者も定着できないので、単なる計画ではなく、具体的に政治という立場から真剣に優先的に取り組んでももらいたい。
瀬谷課長	企業誘致に力を入れるということであれば、そこにお金や労力を集中していくというようなことが必要になってくる。企業誘致が最優先、最重要とあれば、そういうことが政策の柱になってくると思う。
水野委員	アンケートや4総の総括で一番のポイントは働く場所の確保をして欲しいということではないのか。
瀬谷課長	4総総括では産業面の評価が低いと思われる。この点を第5次ではどのようにしていくのが難しいところだと思う。
深谷委員	4総では各地区のゾーンがあるが、例えば沢田地区であれば、農業のゾーンということになり、旧町内ならば都市であるとか、そういうことになるが、ゾーンの見直しというのは出てくるのであろうか。ということは、沢田地区は確かに農業地区としての適地だと思う。しかし、それだけでは、発展性がないと思う。農業ゾーンではないゾーンを加えることによって、

	新しい地域づくりが出来ると思う。だから、ゾーンの見直しはでてくるのか。
瀬谷課長	<p>大きな面積を要する企業誘致を行なうような場合において、いちばん条件が良いのは沢田地区ではないかと思う部分もあるのだが、その様な場合に用地を提供できるのかどうかということが問題になる。これは町の中でも、農業振興を考えた時に大きな問題となってくる部分でもあると思う。また、これまでも大きな農業投資をしてきた地域でもあり、この農業投資をした地域を工業用地化するということは、町でも大きな方針の転換を図らなければならない。</p> <p>仮に町で農業地域を工業地域に変更するための計画を立てて、農地転用するために、町では用地の確保を出来るのか、あるいは土地を所有している人が手放すことが出来るのか、これまで農業に投資し生計を立てている方々には影響がないのかなどということを検討しなければならない。今までは、石川町でよい条件の場所を工業用地にできなかったというのは土地に対する規制によるところが大きいと思われる。</p>
深谷委員	<p>ということは、土地が動くということになれば、変わってくると思う。そうすればゾーンの見直しはあり得ると考える。</p>
西川会長	<p>振興計画審議会と都市計画審議会、行財政改革審議会、それぞれの審議会の間の整合性をどのようにとるのか、ということが難しい部分であり、今までの行政システムをある程度変えていくことまでもこちらの審議会では議論しなくてはならないのではないかと。</p>
瀬谷課長	<p>総合計画は町の最上位計画に位置付けるものであるので、様々な計画の上位にある計画となり、様々な議論がなされる中で町の計画を見直していかなければならないケースも生じてくるということが考えられる。</p>
鈴木委員	<p>石川町には折角、2つの高校があり、他の地域から若者が通学してきている。まちづくりのなかでもこれらの学生が、いかに石川町の魅力を知ってくれて。宣伝してくれて、定着してくれるような意識を与えられるだけでも良いと思うので、2つの高校の教員の方も、まちづくりに参加して欲しいと思う。魅力あるものが出来てくれば、若い人たちが見に来てくれたり、定着してくれるような町になる可能性がある。折角、2つも高校があるのだから、これをこれからも大事に活かしていけたらよいと思う。</p>
瀬谷課長	<p>この審議会の中で、高校生との意見交換会なども可能だと思う。</p>
添田係長	<p>今回、アンケートを実施した中で、高校生にもアンケートを実施している。この中には町外から通学する生徒も含まれている。</p>

	町外の高校性は石川町をどのように見ているのかということも含めて高校生については、町内及び町外の学生にもアンケートを答えてもらった。
斎藤委員	地区のまちづくりということで、具体的にその地区に住んでいる人達が自らの地区のよさを明確にするために、町が良いところを提示すればもう少しわかりやすくなるのではないか。
瀬谷課長	こちらから提示するのではなく、自分たちで地域のよさを見つけるということが大事であり、その現場を歩いてみたり、情報を共有しあったりということを通して、自分たちの地域を良さを Finder というということで、各地区のみなさんには説明している。
添田好史委員	まちづくりが地域ごとになされるということが、どうしてもイメージできない。もっと、町外や広域と連携して、横のつながりによって、石川郡やもう少し広い地域に人を呼び込んでくるということや、周りの町村と共同で地域づくりをするということが、または、共同で人を呼んでくるということが夢を持たせることに繋がるのではないだろうか。この点を構想の中に入れていただきたい。
瀬谷課長	各地区の説明会でも同様の意見をいただいた。例えば、中谷地区では桜についての意見が出た。桜の問題は中谷地区だけではなく、石川町全体で方針を出してくれたら良いのではないかというものだが、行政のひとつには観光という分野の中で、町全体の部分や広域的な連携ということを考える部分があるので、地域や地区と連携していけるものは連携できている。前提として、地域では、地域でできるものは地域で行なうという計画を実践していただくという、地域づくりの考え方を理解していただきたい。
	それぞれの地区、地域がいっせいにスタートできるとは考えていない。それぞれのペースで進めていただければ良いと思う。
	7. その他
	(委員報酬について)
	8. 閉 会 (瀬谷企画調整課長)
	事務局出席者
	企画調整課長 瀬谷寿一
	主任主査兼企画係長 添田祐司
	主査 大竹 実